



手術支援ロボット

da Vinci Xi

(ダビンチXi)

2025年4月 導入



da Vinci Xi導入の目的

da Vinci Xi (ダビンチ エックスアイ) を、主に消化器外科、泌尿器領域の手術を支援することを目的に導入いたします。

da Vinci Xiは、全世界で最も実績のある最新の手術支援ロボットです。

十分な経験を積んだ医師がda Vinci Xiを操作することで、患者様のご負担が少ない「低侵襲」でより安全な手術を目指しています。

当院では、消化器および泌尿器領域の悪性腫瘍（癌）の切除術をはじめとした手術にda Vinci Xiを活用してまいります。



当院について

湘南慶育病院は、藤沢市「健康と文化の森地区」において急性期医療から回復期リハビリテーション医療までをシームレスに行うことで「その人らしい生き方」を尊重した医療を提供することを理念としております。

当院は、慶應義塾大学病院、東京慈恵会医科大学附属病院、横浜市立大学附属病院との連携を強化し最新の手術支援ロボット da Vinci Xiを導入することで、地域医療により一層の貢献をいたします。

担当代表医師紹介

医局長・外科診療部長

志田 敦男

SHIDA

ATSUO

(医学博士)



1997年 東京慈恵会医科大学医学部卒

2015年 東京慈恵会医科大学外科学講座講師、
消化管外科診療医長

2018年 ローマサンジョバンニ病院ロボット手術部門 留学

公式HP



医療法人社団 健育会

湘南慶育病院

所在地

〒252-0816

神奈川県藤沢市遠藤 4360

TEL

0466-48-0050

FAX

0466-48-0010

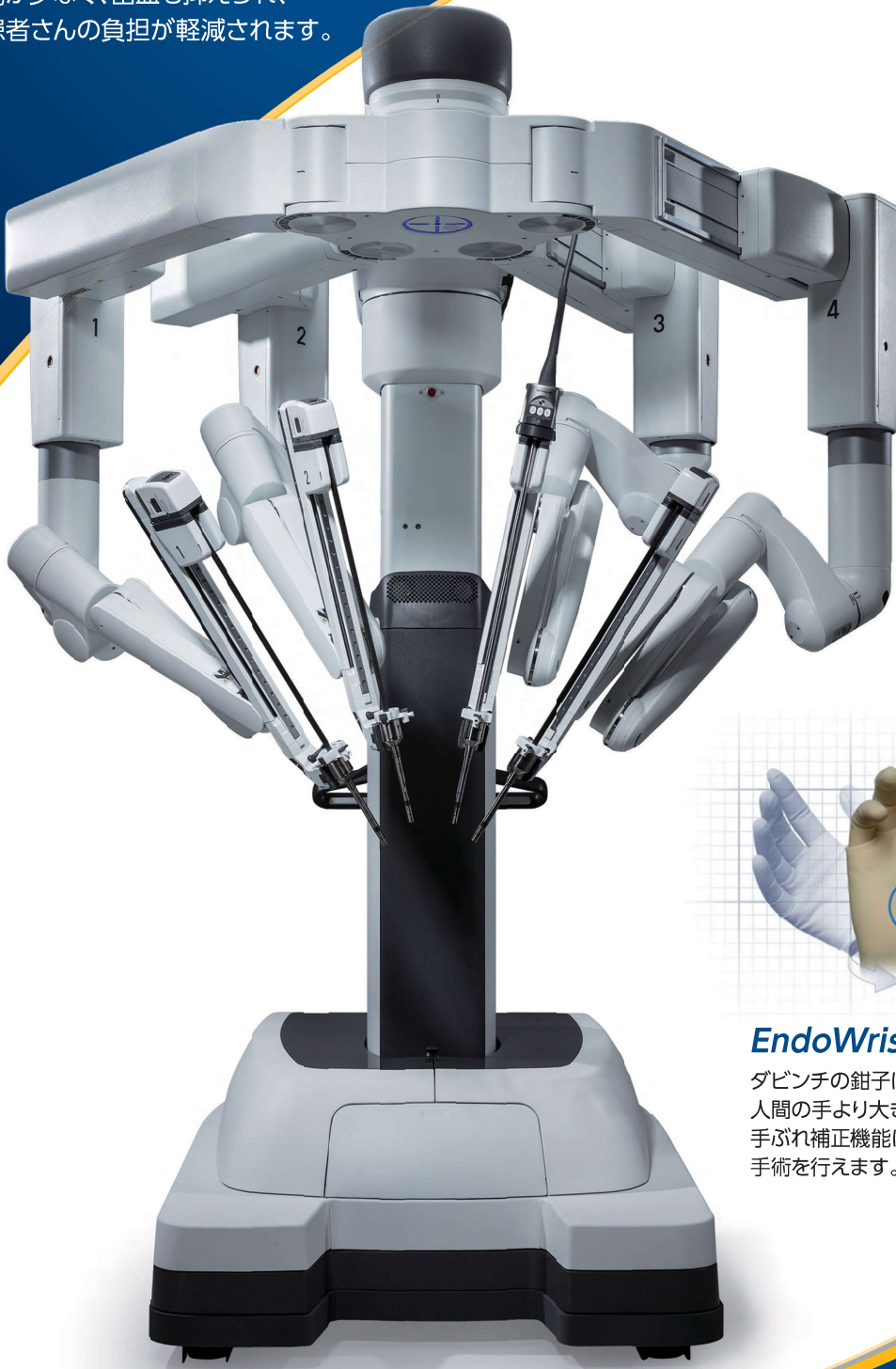
WEB

<https://keiiku.gr.jp/>



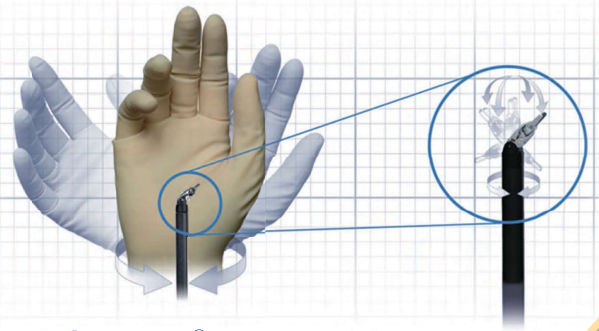
低侵襲ロボット支援手術の特長

切開部分が小さくてすむために、
傷が少なく、出血も抑えられ、
患者さんの負担が軽減されます。



サージョンコンソール

鮮明な高解像度、高倍率の3DHD画像を
見ながら手術ができ、術者の手の動きと
インストゥルメントの先端が連動した
動きになります。



EndoWrist[®] インストゥルメント

ダビンチの鉗子はリスト構造を持ち、
人間の手より大きな可動域と
手ぶれ補正機能により精密な
手術を行えます。

da Vinci Xi
SURGICAL SYSTEM

当院はこの度、
最新の「da Vinci サージカルシステム」を導入
いたしました。

ダビンチって
なに？

低侵襲手術支援ロボット

da Vinci サージカルシステム(ダビンチ)

低侵襲手術支援ロボットとは？

ダビンチは従来の腹腔鏡手術と同じようにいくつかの小さな切開部を作り、外科医の操作に従って内視鏡・メス・鉗子を動かして手術を行う内視鏡手術支援ロボットです。



1 サージョンコンソール

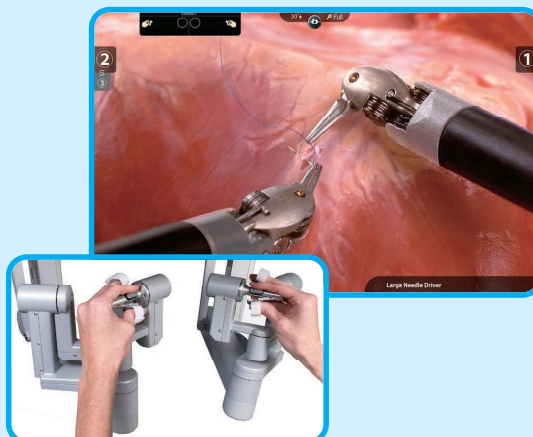


2 ペイシェントカート



3 ビジョンカート

- 1 「サージョンコンソール」とよばれる操縦席に座り、3D画像を見ながら手元のコントローラーを操作します。
- 2 「ペイシェントカート」の4本のロボットアームにその動きが伝わります。
- 3 「ビジョンカート」モニターに手術中の画像が映し出され、手術スタッフも同じ画像が共有されます。



ダビンチは医師の手の動きを、より細かく精密な動きに変換します。

ダビンチって
なに？

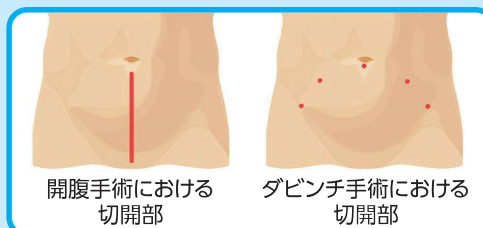
低侵襲手術支援ロボット

da Vinci サージカルシステム(ダビンチ)

低侵襲ロボット支援手術の特長

1. 体への負担が少ない

数カ所の小さな切開部から手術を行うため、傷が小さく、出血も抑えられ、手術後の回復が早く、患者さんの負担が軽減されます。



2. 鮮明な3D(3次元)画像

コンソールモニターには高画質で立体的な3Dハイビジョンシステムの手術画像が映し出されます。

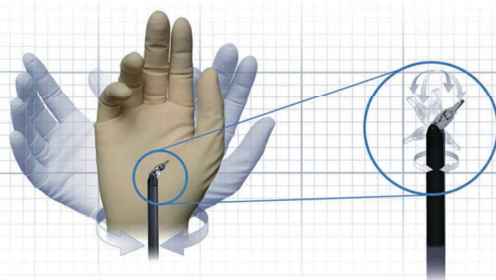
3. 精密な動きを再現

医師がロボットアームに装着されている鉗子やメスを操作します。ダビンチの鉗子はリスト構造を持ち、人間の手より大きな可動域と手ぶれ補正機能を備えています。

4. 低侵襲ロボット支援手術の実績

ダビンチは今日までに世界中で約250万件(2015年現在)のさまざまな外科手術で使用されてきました。

ダビンチは世界の外科手術に大きな変革をもたらしています。



主な適応手術

- 前立腺がん
- 腎臓がん
- 胃がん
- 大腸がん
- 食道がん
- 子宮がん など